

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年2月1日

事業所名 : 放課後等デイサービスさんてらすの花

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2	スペースを区切る個室を用意する	・工夫して区切ったり活動を分けることは必要。広い方が良いが、現実的なスペースなのではないかと思う。
	2	職員の配置数は適切である	5	1		・バランスの調節は必要であるが、人数は安定してきている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3		・二階にある為、車いす使用の場合、自力で施設内まで上がる事が難しい。それ以外は配慮努力している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	終礼・ミーティング等	・なるべく全スタッフの意見も取り込めるように、している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		日頃から保護者様の声を意識している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		冊子にして配布 法人HPにて公開	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5	外部評価は未実施	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	職責にあった研修を受けている	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			・日常生活にも反映できるように考えている
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	4		・検討
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		・チームアプローチで計画、立案を行っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			・体育館利用、クッキングの定期開催等、利用児の希望や活動に合わせて流動的にしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	3		・自由活動、個別活動、集団活動に分けて、支援を組み立てていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	3		・ミーティングの習慣化を改めて設定し、必要な情報を共有できるようにしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	終礼の実施から、 昼礼に変更	・片づけなどの残務処理に追われている事が多いように思う。 ・職員同士で利用児の様子を共有する事は毎日ある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		当日中に記録を作成する	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	定期的実施	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	2		・施設内研修にて、ガイドラインについての理解を深める取り組みを実施する。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		参加できるようにシフト調整		

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		行事予定表や下校時間表をいただいている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	1		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			・支援会議等には積極的に参加するようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		3		・対象者がいない為、未実施。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		・直接のやりとりはしていないが、相談員やご家族を介してやり取りをしている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4		・放課後等デイサービス事業所同士での交流は行っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	4		・今後、保護者のニーズ・デマンドに合わせて具体性を高めたいと考えている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1		・定期的に相談会の開催などを検討する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3		・親子活動時に保護者同士の交流が出来ればと考えているが、参加しやすい工夫は必要だと思う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		苦情相談窓口・第三者委員の設置	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		さんてらす通信イベントのご案内	
	35	個人情報に十分注意している	6			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		ひらがな、絵、修飾など	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	各種マニュアルの作成	・保護者様への周知は十分ではないかもしれない。特に防犯マニュアルの説明が必要。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		原則年2回実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	防止マニュアルを策定している	・三か月に一回必ず会議を行い、虐待についての理解を深めれるようにしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	身体拘束適正化のための指針を作成	・虐待同様に三か月に一回必ず会議を行っている。利用児様に対しては十分に説明が出来ていないかもしれない。保護者様に対しては、重要事項説明書に則り説明を行っている。

42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	3	アレルギーの有無の確認	・アレルギーに気をつける利用児様が現在のところほとんどいないが、必要に応じて対応マニュアル等が必要と考える。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		作成と確認を全職員で徹底	